

特別寄稿『シリーズ：「50歳からの地域デビュー応援講座」を実施して』

## ～第4回「キャリアを活かして地域に貢献、第2のキャリアステージは地域にあり～

コミュニティビジネス総合研究所代表取締役所長：細内 信孝

### 1. はじめに

今回のレポートは、当講座の第4回目の「キャリアを活かして地域に貢献」と第5回目の前半部分「第2のキャリアステージは地域にあり～まちの仕事おこし、コミュニティ・ビジネスの考え方を学ぶ」をあわせて紹介する。まずは、定年退職者や在職中でも子育てをすでに卒業し、定年準備段階を迎えた人たちが、地域の安心・安全を守り、自分の得意技から地域に貢献するような活動や事業をいかにして立ち上げていくのかを考える。次に、今後の地域社会（地域コミュニティ）の方向性や本格的に少子高齢化するわが国の人口構造を鑑み、理想とする自立的な個の確立や地域社会を念頭に入れ、個人の自立に向けた地域活動やボランティア活動、さらにはコミュニティ・ビジネスについて考察する。最後に、地域で行政と共に新たな公共づくりに向けてどう取り組んで行ったら良いか、その考え方を解説していくことにする。

栃木県労働者福祉センター主催『50歳からの地域デビュー応援講座』カリキュラム

開 催	テ　マ	内　容
第1回	今こそ、地域デビューのとき	50歳からの地域デビュー心得
第2回	地域への関わり方 一人で？ 仲間と？	ボランティア、NPOなど関わり方の カタチを探る
第3回	地域再発見！ 芸術文化、スポーツでまちづくり	アート、音楽、スポーツ、歴史、観光、 まずは自分の関心分野から
第4回	キャリアを活かして地域に貢献	地域の安全・安心を守る、福祉に携わる、 地域のニーズに応えてやりがいを実感
第5回	第2のキャリアステージは地域に あり	まちの仕事おこし、コミュニティ・ ビジネスの考え方を学ぶ

### 2. 思いやりとキャリアを活かして地域に貢献

#### 1) 地域の仕事、まちの仕事とは

『地域の仕事』、すなわち『まちの仕事』には2通りある。地域の共同体の一員としての仕事、すなわち『おつとめ』（役務の対価を求めないもの（無償））としてのまちの仕事である。もう一つは自ら労働を提供し、経済的な対価を求めるもの（有償）がある。しかし都市部ではおつとめとしての『無償の役務』が低下し、経済的な対価を積極的に追及する会社勤め、すなわち会社コミュニティがその大部分をしめ、それがそこに所属する人々の優先的な行動規範となり、地域コミュニティの行動規範より

も優先されるようになってきた。したがって町内会、自治会への加入率の低下やまちのゴミ拾い、側溝の清掃活動、さらには役所、警察、消防などとの協働から行われる防犯・防火活動への地域住民の参加などのおつとめ機能が低下している。

都市部を中心に、こうした地域コミュニティへの恣意的な不参加による地域の一体感消失を嘆く人々は決して少なくない。その隙間を埋めるものとして、1995年の阪神淡路大震災以降、市民活動が注目され、1998年にNPO法が制定された。全国各地で自主的に展開されるこうした住民・市民らによる地域活動やボランティア活動、さらにはコミュニティ・ビジネスへの発展（地域の諸問題解決をビジネスの手法を取り入れ、継続的にかつ自立的に解決していくこと）が注目されるようになってきた。



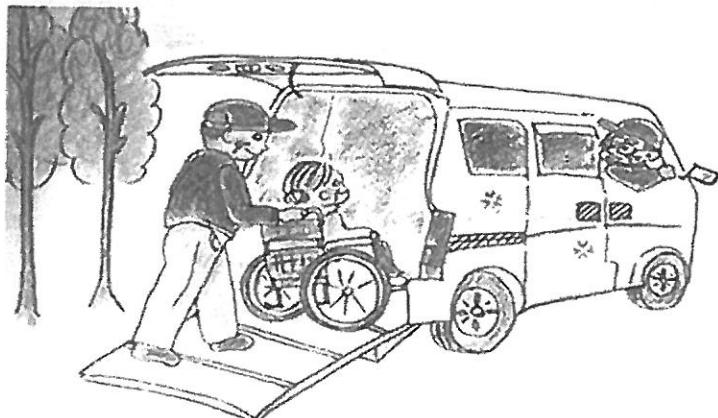
## 2) 地域のニーズに応えてやりがいを実感

まちの仕事起こしとしての地域活動やボランティア活動、さらにはコミュニティ・ビジネスには、どんなものがあるかというと、例えば、脱サラ後の充電期間中に地元のNPOで介護タクシーのお手伝い（ボランティア活動）をした中年の男性がいる。介護タクシーを利用する身体障害者の車いすがよく壊れるので、その度ごとに修理してあげていた。そのボランティア活動（車いすの修理作業）からそれが本業となり、彼は電動車いすの修理・改造を中心とした「福祉の工房」を始めることになる。やがて地域の仲間3人も集まり、売上も伸びて有限会社となり、年間の事業高が1億円に迫る立派な福祉事業に発展した。今では東京の下町にある立派なコミュニティ・ビジネスとなっている。

また市役所を定年退職し、第2の人生を「里山の環境保全活動」に取り組んでいる人がいる。彼は地域に自ら主宰するNPO法人をつくり、同年代の仲間たちと一緒に里山の環境保全に取り組んでいる。里山の中に炭焼き小屋を造ったり、近所の

子供たちやその父母を招いて、芋ほりや栗拾い、稲刈りなどの農作業体験ができる場を地域に提供している。その活動の基本になる考えは、「自然の大切さ」と「自然との共存」を、次世代子供たちへ正しく伝えることだと彼はいう。また、今までの役所勤めとは違う視点が見えてきて活動が面白いともいう。

### NPOで介護タクシーのお手伝い



### NPOで里山の環境保全



子育てを卒業したある女性は、身近な地域活動から始めて、やがて仲間を募って相互扶助の生活支援を展開するNPO法人を起した。その理念は、生涯自立をめざし、

互いに尊重し、地域のみんなで相互協働するということである。社会福祉協議会などの既存の組織とは少し趣の違う、水平展開の住民・市民らによる相互扶助のネットワークだ。彼らは、顔の見える関係を大切にし、地域で困りごとを抱えている人の「助っ人になる！」を合言葉に地域密着の活動を展開している。高齢者や障害者、乳幼児を抱えているお母さんなどからも頼りにされている。その代表を務める彼女はいう。

『会員同士でお手伝いをしたり、してもらったりすることで、とにかく地域の中で仲間が増えるんです』と、嬉しそうにいう。その笑顔がとてもイキイキとしていて素敵だ。彼女の笑顔は、地域のニーズに応えてやりがいを実感している証拠だろう。



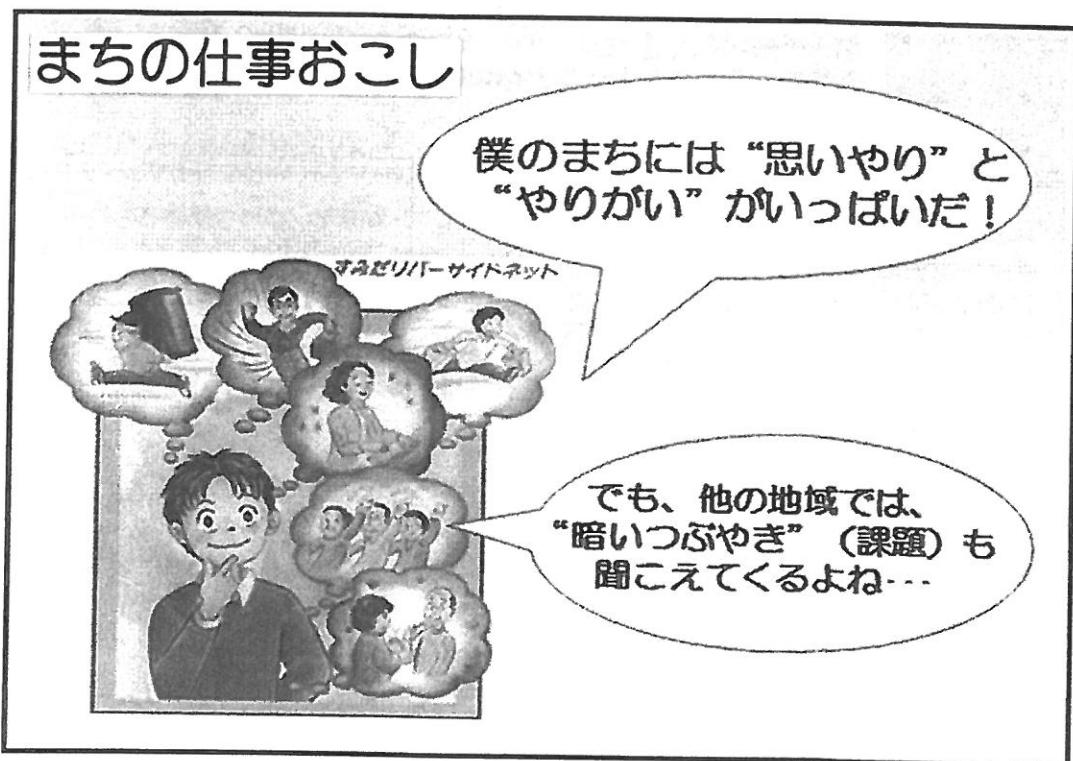
こうした『地域の仕事』、すなわち『まちの仕事』を面白く、楽しく進めるための心得としては、まずは周囲の人々を楽しく、そして楽に、かつ自分も樂しくなるように『はたらかないで、はたらく（傍・楽）』ことが大切だ。2点目は『がんばらないで、がんばる（顔・晴る）』ことだ。第一の人生で培ったキャリアを活かし、まちの人々への『おもいやりの心』と『やりがい』を持って地域活動に取り組めば、みんなの笑顔がまちいっぱいに広がっていくことになるだろう。

### 3. 第2のキャリアステージは地域にあり

#### 1) まちの仕事おこし、コミュニティ・ビジネスとは

今まで「地域デビュー応援講座」として、主に50歳以上の方を対象にして4回にわたり地域デビューへの方法を学んできたが、コミュニティ・ビジネスはそのゴールの一つである。昨今、地域活動やボランティア活動も継続性が求められているが、そうした中でのコミュニティ・ビジネスによる地域問題への取り組みは、そのことに一人でも気がつき、そのことに取り組めば、やがて地域コミュニティの仲間が集まり、継

統的に事業を展開することが可能となってくる。それらを意識して立ち上げていくことが今、求められている。だからこそ第一の人生（職場）で培ったキャリアを活かし、地域という新たなコミュニティがあなたの出番を待っているのだ。



## 2) コミュニティ・ビジネスの定義とその特徴

コミュニティ・ビジネスの定義は、簡潔に述べると『自らの地域を元氣にする住民主体の地域事業』である。その特徴は、『住民主体の地域密着のビジネスであり、必ずしも利益追求を第一としない、適正規模、適正利益のビジネスである。また営利を第一とするビジネスとボランティア活動の中間領域的なビジネス』である。コミュニティ・ビジネスは、複雑で長期間にわたることが少なくなく、小さなマーケティングであるが、従来のビジネスの特徴である競争志向や利益志向ではなく、共生、草の根的な事業コンセプトである。その成果も、従来の効率や生産性を求めるものではなく、意義や意味を求めて活動するものである。こうしたコミュニティ・ビジネスの効果としては、主に四つの視点が考えられる。一つ目は人間性の回復であり、個人の働き甲斐や生きがい、自己実現づくりにつながる。二つ目は社会問題の解決であり、地域のニーズにあった社会サービスが提供される。三つ目は地域の遊休資源を積極的に活用し、新たな雇用を生み出す。四つ目は生活文化の継承・創造であり、地域コミュニティに役立つ活動や事業を開拓することで、生活に係る知恵やノウハウが蓄積され、コミュニティの多様性や独自の生活文化を生み出すことにつながるのである。

## 期待されるコミュニティ・ビジネスの効果

### 人間性の回復

- ・個人の働きがい、生きがいつくり、自己実現につながる
- ・人的ネットワークやコミュニティ意識を生む

### 社会問題の解決

- ・ニーズにあった社会サービスが提供される
- ・環境負荷の低減、環境の保全につながる

### 生活文化の継承・創造

- ・知恵やノウハウが蓄積される
- ・コミュニティの多様性や独自の文化を生み出す

- ・技術や資源が活用され循環する
- ・雇用を維持、創出する
- ・地域に対する投資が行なわれる

### 経済基盤の確立

(C)ホソウチノブタカ

### 3) コミュニティ・ビジネスを支える仕組み

コミュニティ・ビジネスは従来のビジネスと違い、地域で支える仕組みが求められる。そのことは地域コミュニティで事業活動を支える人々となって現れる。一つ目は物心両面で支えてくれる人。時にはその活動に寄付をしてくれたり、または精神的な支えにもなってくれる。2つ目は仲間の存在である。その事業活動に出資を行い、経営にも参画してくれる人である。3つ目はサポーターとして、その事業活動にボランティア活動をする人である。最後の4つ目はバンカー（銀行員）の存在である。コミュニティ・ビジネスのような小さな事業活動の経営診断を行い、融資や補助金獲得へのアドバイスをする人（専門家）である。こうした地域の人々によって支えられて、初めてその地域事業（コミュニティ・ビジネス）は経営が好転をするのである。欧米のコミュニティ・ビジネスの経営者（理事会）の中には、元銀行の支店長や元公務員などがあり、資金調達や補助金獲得に長けている人材も少なくない。彼らは第2の人生を地域で楽しんでいるようだ。

### 4) 地域コミュニティから資金調達も可能

コミュニティ・ビジネスのような小さな地域密着事業の資金調達先は、既存の金融機関ばかりではなく、地域コミュニティから直接住民・市民らによる出資事業として資金の調達が可能である。例えば主婦が始めた自然酵母活用のパン屋さんの開業資金も、1口5万円出資の『パン債』という私募債を発行し、地域コミュニティの仲間から800万円を調達し、その費用に当てたという。また引きこもりの青少年のためにコミュニティレストランを開業し、彼らの就労の場として、まちなかに作られたコミュ

ニティ・ビジネスもある。その開業資金は、小口小額の1口1万円の市民債として、幅広い市民層から支持を集め、200口200万円の賛同金が集まったという。そして、まちづくりの分野でも、地域資源であるまちなかの土蔵を改造し、ゲストハウス（簡易民宿）に活用し、その費用の一部を建設クーポンとして発行し、3,000万円近い建設費用を調達したコミュニティ・ビジネスもある。これらは、いずれも配当や金銭的な見返りを期待するものではなく、地域の発展や郷土愛から来ているもので、こうした地域コミュニティに根付いた『まちのためになる活動や事業』を広くコミュニティ・ビジネスと呼んでいる。よって法人格で規定するものではないが、その形態は、NPO法人や協同組合、企業組合、一般社団法人が多く、まちづくりや自然エネルギーなどに取り組むときは、株式会社、合同会社という形態をとることもある。最近は、市民による風力発電や太陽光発電、水力発電などの出資事業が、年1～2%の配当金を出すところまで成長している。

## 地域コミュニティから資金調達も可能

### 地域の事業には少人数の私募債も発行可能

1. スピカ	パン債	自然酵母のパン店の開業資金
2. 茨城NPOセンター	とらい債	コミュニティレストランの開業資金
3. ア・ラ・小布施	建設債	ゲストハウスの建設資金
4. 北海道グリーンファンド	市民風車債	市民風車の建設資金

(C)ホリウチノブタカ

### 5) コミュニティ・ビジネスの事業分野と起業のポイント

コミュニティ・ビジネスは地域の困りごとを事業化する特徴を有している。それは、人々の生活にまつわる分野であり、地域資源を積極的に活用しながら、福祉、環境、情報ネット、観光・交流、食品加工、まちづくり、商店街の活性化、伝統工芸、地域金融、安全、子育て、文化・芸術、スポーツ、中間支援の主に14分野が存在し、生活全般にわたっている。コミュニティ・ビジネス起業のカナメとして、まず始める前の事業企画の段階、そして事業を始めるとき、始めてから1年後に確認する共通ポイントを紹介しよう。

まずはコミュニティ・ビジネスに関する人々の「自己起こし」になっているかど

うかである。自分起こしになっていないなら、やらない方が良い。そして、その事業は、地域が抱えるさまざまな諸問題の解決の一助になっているかどうかである。つまり地域コミュニティに寄与する、貢献するという姿勢が大切なである。次に地域コミュニティに新しい社会関係や協働関係を生み出しているか、という視点が大切である。既存の枠組みを超えて、新しい機能・役割を地域に作ることが期待されている。最後は、コミュニティ・ビジネス事業そのものと地域コミュニティの元気づくりへの貢献が上手くバランスのとれたものになっているかどうかである。地域コミュニティで良いことをしているのだから、みんながついてきて当たり前と過信してしまうと、思わぬ落とし穴が待っているのだ。

## コミュニティ・ビジネスの事例

~新しい地域経済を創出する草の根のCBたち~

1. 福祉 さいとう工房 cafe大好き
2. 環境 ドンカメ ューズ
3. 情報ネット シニアSOHO三鷹
4. 観光・交流 ア・ラ・小布施 黒壁
5. 食品加工 小川の庄 スピカ 企業組合凡
6. まちづくり CS神戸 野沢組
7. 商店街活性化 アモール東和 たちはな銀座
8. 伝統工芸 9. 地域金融 10. 安全
11. 子育て 12. 文化・芸術 13. スポーツ
14. 中間支援

(C)ホソウチノブタカ

### 4.まとめ

結論的にいえば、地域社会を豊かにする地域（まち）の仕事おこし、それがコミュニティ・ビジネスである。コミュニティ・ビジネスは、住民主体による地域事業であり、住民が良い意味で企業的な経営感覚を持ち、生活者意識と市民意識のもとに活動する事業である。その目的は、コミュニティを元気にすることにある。決して一個人や一部の関係者の利益を追求するものではない。地域デビューのはじめの一歩として、地域活動、ボランティア活動から始めると、それは長い道のりになるかもしれないが、そのゴールの一つとしてコミュニティ・ビジネスがあることを覚えておいて欲しい。今後地域の再生や地域の活性化は、新しい公共づくりのとともに、地域経営の在り方、市民参画・市民協働等の在り方を踏まえながら、行政、市民・住民、地元企業、福祉

団体、商工団体、小中学校、大学などがそれぞれの得意分野を活かし、一緒になって取り組むべきものである。そう考えると地域は、あなたの身近なところにある。第一の人生（職場）で培った人脈やコミュニケーション能力を活用し、地域にできた新しい仲間と共に、地域で顔の見える関係を再構築しようではありませんか。（つづく）

## コミュニティ・ビジネス成功への近道

- 生活領域の起業化(14分野など生活の質の向上)
- 自治体は、積極的に業務委託を行う
- 地元にある企業も、積極的に業務委託を行う
- 事業の柱を何本か作り、全体で収支バランスを計る
- マネジャーとワーカーを分けて育成
- 時にはマネジャークラスの公募

(C)ホソウチノブタカ

※ 最終回となる次回は、あなたの“地域に対する夢”を“カタチ”にするために、具体的な“ワークシート”を紹介する。

### 〈参考文献〉

- 細内信孝著『新版コミュニティ・ビジネス』学芸出版社  
細内信孝編著『がんばる地域のコミュニティ・ビジネス』学陽書房  
細内信孝編著『団塊世代の地域デビュー心得帳』ぎょうせい

### 〈参照ホームページ〉

細内信孝のコミュニティ・ビジネス ワールド <http://www.hosouchi.com/>